

お茶の水女子大学附属図書館の学生支援： ラーニング・commonsとLiSAプログラム

廣田 未来*

お茶の水女子大学附属図書館では、2007年から「ラーニング・commons」「キャリアカフェ」といった学生のための学習空間の創出に取り組んできた。全学的な教育改革の動きに連動したこの取り組みにより、学生支援のための学内の各部署の連携が促進されている。また、学生と図書館職員の協働「LiSA（リサ）：Library Student Assistantプログラム」を通して、学生の「学習支援」「キャリア形成支援」にも取り組んでいる。小規模図書館であるお茶の水女子大学図書館が学内の他の部署との連携や学生との協働によって、どのように学習空間と学生支援の充実に取り組んできたかを報告する。

キーワード：ラーニング・commons, キャリアカフェ, 学習・教育支援, 学生支援, 学生協働, Library Student Assistant(LiSA), お茶の水女子大学附属図書館, 学内連携

1. はじめに

現在、日本の大学で「ラーニング・commons」と呼ばれる施設が次々と開設されている。また一方で、図書館が学生と協働する事例が増加している。これらは2008年の中央教育審議会の答申¹⁾によって、大学教育において教育より学習を重視するというパラダイムシフトが起きたことによる。その結果、「知識の伝達」から「知識の創出・自主的学習」²⁾が重視されるようになり、大学図書館の果たすべき機能として、学習・教育支援、とりわけ学生への直接支援が重視されるようになったためである。

私が所属するお茶の水女子大学附属図書館は、総床面積4,825m²の2階建てで（この規模は国立大学平均の44%にあたる）、図書館職員数や予算規模は国立大学平均の半分に

も満たない小規模な大学図書館である。このような状況ながら、大学全体の教育プログラムと連動した図書館改革として、「大学と協働する図書館」（大学の中で孤立しない図書館）を目指し、「ラーニング・commons」「キャリアカフェ」というラーニング・commons的空間の創出や学生と図書館職員の協働による図書館活性化のための活動「LiSA（リサ）：Library Student Assistant」に取り組んできた。いずれも2007年より開始し、現在4年目を迎えている。本学で「ラーニング・commons」を置くことになった経緯は、設置の翌年に本誌などでも報告³⁾⁴⁾しているが、今回はラーニング・commons的空間や学生との協働プログラムをどのように充実させてきたかを報告する。

2. お茶の水女子大学のラーニング・commons

2.1 「ラーニング・commons」の設置経緯とその後の整備

2007年4月、情報基盤センターとの協働により、附属図書館1階に「ラーニング・commons」を新設した。それまで学内の研究センターに間貸しし、各教員の研究個室などに細かく仕切られていた空間を、構造壁以外はすべて取り除いて利用者用スペースとした。無線LANを完備して、学生用のパソコン50台（2011年9月現在70台）、電源とLANの口を備えたデスク8席、スキャナー機能つきプリンタ1台を配置した。そしてICT環境（Information and Communication Technology）の整備だけでなく学生への人的支援が重要と考え、PCの利用法をはじめ学習面のサポートもできるよう、大学院生の「ラーニング・アドバイザー」が午後のみ常駐する体制でスタートした。そして、この空間を本学が取り組む「21世紀型文理融合リベラルアーツ」を支える学生のための協働コミュニケーションスペースと位置づけ、「ラーニング・commons」と名づけた。隣接した空間には、開放感を損なわずに利用者の様子がわかるようガラス窓のある壁で区切った事務室を配置した。この事務室は後述するキャリアカフェとも隣接しているため、学生の図書館利用の様子が把握しやすくなったほか、

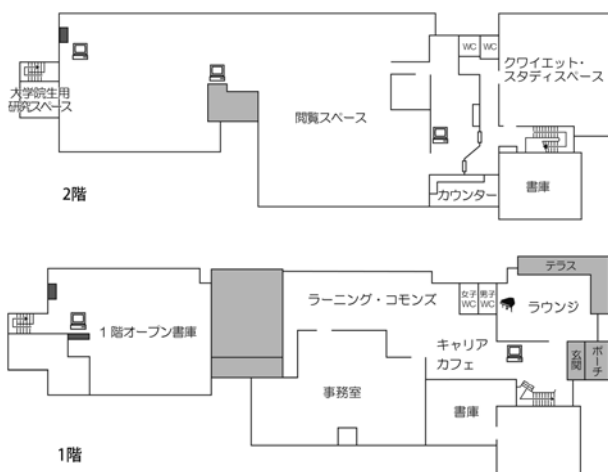


図1 お茶の水女子大学附属図書館のフロアマップ

*ひろた みき 国立大学法人お茶の水女子大学図書・情報チーム
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1
Tel. 03-5978-5834 (原稿受領 2011.10.7)

図書館内で行われるイベントのサポートも容易になった。

ラーニング・コモンズは運用開始直後からよく利用されている。学生ニーズの高いこの場所をよりよいものとするべく、運営パートナーである情報基盤センターによって、ラーニング・アドバイザーの常駐時間の延長（開館から閉館まで）のほか、PCのリニューアルなどの環境改善が随時行われている。また、ソフトウェアのマニュアル類、論文の書き方やアカデミックプレゼンテーションについて書かれた本、辞書を常備するなど、学生が安心して学習やレポート作成に取り組める環境を順次整えてきた。

2.2 「キャリアカフェ」の設置経緯とその後の整備

2007年12月には、附属図書館の入口正面、ラーニング・コモンズの手前に「キャリアカフェ」というオープンなコミュニケーションスペースを新設した。これは、2007年度に採択された現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）の担当教員がキャリアカフェ候補地を探していたのを附属図書館側から積極的に誘致し、情報基盤センターの協力も得て設立したものである。図書館側から学内の動向にアンテナを張り、チャンスを逃さず積極的に動いたことで実現した空間である。設置当初の設備は、無線LAN環境、雲型のテーブル5卓、椅子25脚、1人掛けソファ4脚、3人掛けのソファ1脚、ドリンクサーバー1台である。学生が企画する講演会や授業が行えるほか、普段は誰でも自由に座ることができるオープンなスペースとしてスタートした。図書館入口に設置したカップ式ドリンクサーバーの飲み物は、キャリアカフェとそれに隣接するラウンジで飲むことができる。このカップ式ドリンクサーバーとパステルカラーの雲形テーブル、カラフルな椅子を導入したことで、明るい印象の空間となった。休憩時間にコーヒーを飲みながらラウンジでくつろいだり、友達との待ち合わせやグループ学習のために来館する学生が増え、和やかなコミュニケーションスペースが実現した。このキャリアカフェとラーニング・コモンズの設置をもって、図書館の利用者スペースは改修前の80%増、事務スペースは27%減となった。

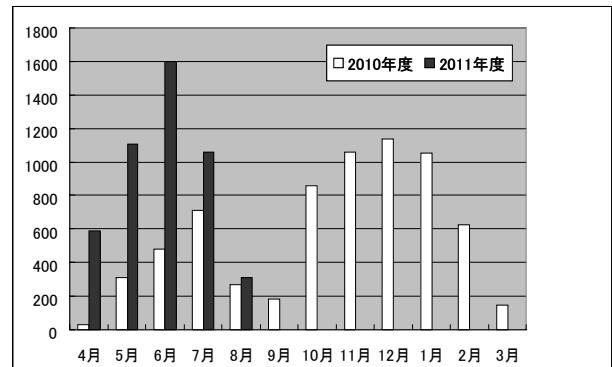
2.3 自立的な学びの空間に向けた環境整備

玄関を入るとすぐにキャリアカフェで学習する学生の姿が目に入るため、ここがどのような場であるか入館者は瞬時に理解することができる。そして、明るく開放的なラーニング・コモンズとキャリアカフェは「学生が集う共有の場」として連日賑わいをみせている。特にキャリアカフェでは、グループ学習を行う学生が予想以上に多く、学内にそのような場が不足していたことが改めてわかった。限られた空間ではあるが、学生のニーズに応えるため、キャリアカフェとラウンジに雲型テーブル6卓、椅子23脚、ホワイトボード1台を順次追加したところ、フル活用されている。

さらに2010年4月には、2階の閲覧スペースにある全ての個人用閲覧機の電源とLANケーブル差込口を利用可

能にしたほか、全館に無線LANを整備し、図書館のどこからでもネットワークが利用できる環境にした。また同月末には、学生が館内で自由に使えるノートPCを40台用意した。このPCは図書館2階のクワイエット・スタディスペース内に設置した「ノートPC自動貸出ロッカー」に入っており、貸出返却は学生証を使って学生がセルフで行える。表1のノートPC月別利用件数が示すとおり、認知度があがるとともに利用数も順調に伸びている。

表1 ノートPC月別利用件数



図書館全体でICT環境が充実した結果、1階のキャリアカフェやラウンジでは、複数人で議論を交わしながら課題に取り組む学生の姿が見られ、2階の閲覧スペースやクワイエットスタディスペースでは、机いっぱいPCと資料を広げ1人で集中して学習する学生の姿が見られるなど、目的に応じて場所を使い分けて学ぶ学生の姿を目にする。

2.4 何役もかねる空間

学生で賑わう図書館のオープンなコミュニケーション空間は学内でも注目され、教員による認知度も次第に高まってきた。ラーニング・コモンズは、空間の一部をパーティションで区切って使えるレイアウトとしたので、ICT環境を必要とする授業や図書館主催の情報探索講習会の場としても活用されている。またキャリアカフェはレイアウトの変更が容易なため、ワークショップ型の授業やプレゼンテーションの場として使われるほか、机をとりはらい100人規模のイベント会場としても使用されている。

そして、キャリアカフェはくつろぎの空間でもある。「夢・キャリア・ライフワーク」「心を癒す」などのテーマに沿って少し軽めの図書を揃えた「Career Café Books」コーナーを2008年4月から設置している。このコーナーの図書は、図書館の蔵書とは区別し、「Career Café Books」というシールとブックカバーの装備のみ施し、学生が気軽に手にとれるようにしている。自宅に持ち帰ってゆっくり読みたいとの学生の声に応え、2008年10月からは「一夜貸し」も開始した。学生のマナーを信頼し、貸出の手続きなどは特に設けていない。2009年からは後述するLiSAの学生による選書も開始した。LiSAがほかの学生にも薦めたいと選んだ本は、選者が作成したポップが添えられ、「Career

Café Books」の中でも特によく利用されている。なおポップの作成は LiSA からの発案である。

また、キャリアカフェに隣接するラウンジでは、2010年6月から音楽コースとの共催でミニピアノコンサートを定期的で開催している。人前で演奏する経験が積めると音楽コースの学生と教員に喜ばれているほか、ベヒシュタイン社のグランドピアノの生演奏を気軽に楽しむことができるため、ほぼ毎回立ち見が出るほど利用者にも好評である。計画段階では、音が響くことへの苦情がくるのではないかと懸念もあった。しかし、建物の構造上2階部分にはそれほど大きく響くことがなく、昼休みなどの限られた時間にあらかじめ告知したうえで開催することで、現在も問題なく続けられている。こうしてピアノが図書館に置かれ、コンサートを開くことができるのも、図書館にオープンなコミュニケーションスペースがあることが学内に浸透した結果である。



写真1 ラウンジでのピアノコンサート風景

2.5 学生のためのサービスデスク

最後に、キャリアカフェで行われている学内連携サービスについてここで紹介したい。学生へのキャリアアドバイザーによる相談受付はキャリアカフェ設置直後から現代GPの主催で行われていた。2009年3月に現代GPがプログラム終了を迎え事務局がなくなってからは、キャリア支援センターに相談業務が引き継がれ、さらに充実したキャリア支援が実施されている。就職や進路に役立つイベントが開催されているほか、常勤のキャリアアドバイザーとキャリア支援センターのスタッフによる相談業務が週に2回行われている。また、就職が決まった学生が就活サポーターとなり、後輩のためにアドバイスを行っている。この支援を行っている「キャリア支援センター」は、平成20年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)」に4年事業として採択された『『出る杭』を育てる～企業で学生が輝くための学生支援』の企画・運営を担う組織である。2010年度はキャリアカフェで「OG交流会」「企業説明会」等のイベントをのべ17回開催したほか、2011年度は前述のようなイベントに加えて「自己分

析体験講座」「就活生向け情報術講座」など各種ワークショップも計15回予定されている。また、キャリアカフェでアドバイザーが受けつける相談内容は、就職活動全般から自己分析、業界・企業研究、エントリーシートの添削、面接指導、公務員試験、進学など多岐にわたっている。2009年度はのべ825名の相談を受け、内容としては、エントリーシートの添削および面接指導が最多であった⁵⁾。



写真2 キャリアカフェでのOG交流会風景

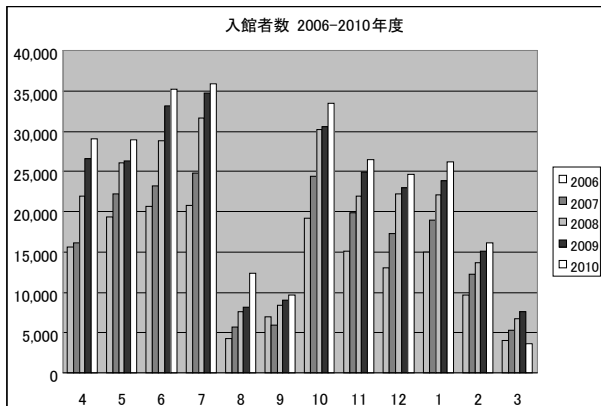


写真3 キャリアカフェでの進路・就職相談風景

さらに2010年からは、グローバル教育センター主催による「キャリアカフェ de 出張留学相談」も定期的に行われている。大学として留学プログラムを提供していることもあり、留学に関心を持つ学生が多い。グローバル教育センターのフロアでも留学に関する資料を各種取り揃えて学生の相談に応じているが、人が集まる図書館では学生に気楽に立ち寄ってもらえるとして、キャリアカフェに出張相談デスクを設けて学生の相談に応じている。

学生支援のために設置された組織や施設であっても、日常的に学生に接触できる場を持っているとは限らない。図書館という学生が集まる「場」を提供することにより、効果的な学生支援が実現可能となっている。学生は「ICT」「就職相談」「留学相談」など多様なサービスをワンストップ

表2 図書館の入館者数の推移



プで利用することができ、図書館は付加価値を高めて新たな利用者呼び込むことができるなど、三者三様のWin-Winな関係が生まれている。このように多様な学生支援のサービスポイントを1ヶ所に集中することは、提供者・利用者双方に効率的である。本学のような小規模な大学で、キャンパスの中央に位置し、全学的な共有空間である図書館に、学生支援サービスの提供場所にもなるオープンなコミュニケーション空間を設ける意義は大きかったと改めて感じている。

ラーニング・コモنزの設置以降、図書館の「場」としての魅力が高まるとともに、入館者数も年々増加している。設置前と比べて2010年の入館者数は1.7倍となった。授業がある期間の1日の平均入館者数は約1,500名で、大学院生を含めた学生数が約3,200名の本学では、かなりの利用率である。表2は、ラーニング・コモنزの設置前である2006年4月から2011年3月までの入館者数の推移である。

3. 学生が自主性を育む機会の提供

3.1 LiSAとは

次に図書館という「場」をいかした新たな学生支援の取り組みである「LiSA (リサ): Library Student Assistant」について紹介する。職員と学生との協働により「図書館サービスと業務運営のイノベーション」を創出し、図書館の活性化を目指す取り組みである。このプログラムを導入する際に学生に対して期待した効果は、学生が幅広い資料に接することによる「学習支援」と、図書館での業務体験を通して職業意識を育成する「キャリア形成支援」であった。

LiSAプログラムは、当時の館長(現学長)の「図書館のファンではなく、サポーターを作りたい」との発言を受け、2007年11月に募集人数10名で試行的に開始した。学生と図書館双方にとって多くのメリットがあることがわかり⁶⁾、その後も受け入れ人数を増やしながら、現在の8期(2011年4-9月)までにのべ207名(新規人数101名)の学生を受け入れている。継続して参加してくれる学生も多く、毎回募集人数を超えて申し込みがある。現在の募集人数は20名であるが、昨年から40名を超える学生が活動

表3 LiSAの活動期間と参加人数

活動期間	参加人数	内訳
第1期(試行) 2007年後期	13名	1年(4)2年(6)3年(1)4年(2) うち1名留学生
第2期 2008年前期	9名 (うち新規3名)	1年(1)2年(3)3年(4)4年(1)
第3期 2008年後期	12名 (うち新規7名)	1年(3)2年(3)3年(5)4年(0) 特別聴講学生(1) うち1名留学生
第4期 2009年前期	20名 (うち新規12名)	1年(3)2年(6)3年(6)4年(5)
第5期 2009年後期	31名 (うち新規18名)	1年(13)2年(7)3年(6)4年(5)
第6期 2010年前期	41名 (うち新規17名)	1年(15)2年(12)3年(6)4年(7)M1(1)
第7期 2010年後期	40名 (うち新規15名)	1年(25)2年(8)3年(3)4年(4)
第8期 2011年前期	41名 (うち新規16名)	1年(10)2年(20)3年(8)4年(2)M1(1) うち1名留学生
合計	のべ計207名 (新規人数101名)	1年(74)2年(65)3年(39)4年(26)M1(1)特別聴講学生(2) うち1名留学生

している。

学生は図書館があらかじめ提示する業務を自ら選択し、期間中に約50時間業務に携われるよう各自計画を立てる。資料に直接触れるものを中心に多様な業務を選択肢として提示しており、学生は図書館のすべての係の幅広い業務に携わることが可能である。LiSAのスケジュールはグループウェアソフトでチームの全員が共有し、業務に応じて各係が対応する。附属図書館の運営に関わるスタッフは定員職員9名、非常勤職員8名の計17名であるが、その人数に比べて少なくない人数のLiSAを受け入れられるのは、チーム全体でLiSAに対応しているためである。ただし、最近ではLiSAの総人数が増えたことで、学生が希望する業務と実際に携わる仕事が必要でも一致しないケースも増えてきた。その点については、学生が状況を理解し柔軟に対応してくれている。またLiSAが行う業務について係間で調整する機会が増えたことで、職員の間で互いの仕事状況がより密に共有されるという副次的効果も生まれている。

学生が業務を行う際は、その仕事を持つ意味や作業の手順をよく理解して取り組めるよう職員が指導助言を行っている。また、マニュアルを整備し、LiSA対象の講習会を開催するほか、職員対象のチーム内研修にも希望者が参加できるようにしている。LiSAの学生は期間終了時に実施報告書を提出することが義務づけられており、プログラムに参加した総括を自ら行う。この実施報告書は、職員全員が目を通し、LiSAに参加したことで学生が何を学んだのかを共有する。これらの全課程を終了した学生に、学長と館長による参加証明書を交付している。なおLiSAに対しては、業務への責任をもってもらうこと、学生生活への支援として奨励金を支払っている。

3.2 主体的な活動とするために

プログラムを前述のように自由度を持たせた形で実施しているのは、多忙な学生でも参加しやすいようにするとともに、学生の主体的な取り組みとするためである。各期の最初に行われる職員と学生の顔合わせミーティングでも、各々が目的や目標を持ち主体的に参加してくれることを願っていること、やってみたいことや図書館に対する提案を歓迎する旨を伝えている。

業務報告書によれば、LiSA 参加者の満足度が高い要因は、参加するひとりひとりが自由に業務に対する視点を見つけて取り組み、自分にとっての必要な学びや気づきを見つける機会となっている点が大きいようである。

また、学生からは、図書館にある資料やサービスに対する理解が深まったといった感想とあわせ、働くことや仕事しやすい組織を作るリーダー像などについて具体的なイメージを持てるようになったとの感想も数多く寄せられている。後者については、①学生が職員と一緒に業務に携わることが多い②学生がサービスの受け手から提供する側になる③本プログラムが半年ごとに完結し、学生同士の関係がフラットであることがそのような感想に繋がっていると考えている。決まったリーダーがいないので、LiSA ミーティングや自主企画ごとに、複数の学生がリーダーとなる。LiSA を継続し経験を重ねた学生が企画を提案し、自ら参加者を募って運営するケースが多い。そしてその呼びかけに共鳴し一緒に活動した学生が、別の機会にミーティングを仕切ったり、新たな企画を提案するようになる。その結果、期を重ねるごとに、「ポップの作成」「企画展示」「他図書館の見学」など学生の提案による主体的な活動が活発化している。また、筑波大学で行われた ALIS (Around Library and Information Science 図書情報学若手の会) で LiSA が発表するなど、他大学の学生と交流する機会も増えており、自発的に活動の場を広げている。また本学には司書資格養成課程がないものの、国立大学法人に図書館職員として就職する LiSA 経験者も複数名現れている。

名古屋大学高等教育センターは、学生・教員・職員がよりよい教育を実現するためにまとめた提案⁷⁾の中で、「大学時代の学生の学習や発達は、授業という枠には収まらないもの」であり、「日々の大学生活など、学生の多様な活動に関わっている大学職員は、学生のさまざまな側面を見ることができ、効果的に学生を支援することが可能なのではないか」と指摘している。下記は学生がキャンパス内で身近に接する教務学生担当職員への提案であるが、図書館職員にもあてはまるものである。また、「学習」を広義にとらえるなら、私たちが LiSA プログラムを設計・運営するにあたり工夫している点もこの提案に重なる。

1. 学生が教職員と接する機会を増やす
2. 学生間で協力して行う学習を支援する
3. 学生の主体的な学習を支援する
4. 学習の進み具合をふりかえらせる
5. 学習に要する時間を大切にさせる
6. 学生に高い期待を寄せる

7. 学生の多様性を尊重する

4. 今後の展望

学内の教職員や学生とのさらなる連携・協働を模索し、学生支援機能を「空間」と「人的支援」の両面から充実させていく必要があると考えている。

昨年 12 月に実施した学生の意識調査⁸⁾で、附属図書館の自習スペースに対して「改善すべき点がある」と学部生の 20.2%、大学院生の 27.3%が回答している。これまでの取り組みによって入館者数は増加しているが、学生が図書館に寄せる期待は高く、今後も改善を重ねていく必要があると認識している。

また、教員との連携という点では、2011 年度より開始した「キャリアデザインプログラム」との連携を模索中である。このプログラムは、文部科学省の「就業力育成支援事業」に採択された事業「女性リーダーのためのコンピテンシー開発」の一環として取り組んでいるものである。学生が①双方向のツール活用②自律的活動③多様な社会集団での協働という 3 分野のコンピテンシーを身に付けられる仕組みづくりを目指している。このプログラムへ図書館がサポートできることがあるのではないかと担当教員に協力を申し出たところ、図書館の無線 LAN 環境、プレゼン活動やグループワークに適したフレキシブルな空間、各種情報資源にアクセス可能であるという「場」としての魅力と、図書館職員が実施している情報探索講習会のような「人的支援」に対し高い期待が寄せられた。プログラムの開発段階から連携することで、そのプログラムで学ぶ学生が必要とする場やサービスの提供につなげたいと考えている。

5. おわりに

ラーニング・コモンズの「コモンズ (Commons)」は、「共有空間」を指す。「ラーニング・コモンズ」を設けてから今にいたるまで、本学には「ラーニング・コモンズ」の構成要素⁹⁾がすべて揃っているわけではない。しかし、「共有空間」を志向しながら、図書館がやる気であることを学内にアピールし、できることからとにかく着手してきた。その結果、必然的に学内各部署との協働が起り、「場」と「人的支援」双方の充実を図ることができた。それらは同じ課題や要求を持った学内の教職員、学生との協働ですすめてきたものが大半である。予算も場所も限られた図書館が、大学の教育プログラムに沿って機能するためには、学内各部署や学生と協働できる「場」と「機会」を作ることが必要であったと、この 4 年を振り返り改めて実感している。

協働の過程で各々の顔や得意分野などを互いに理解し、尊重していく中で、相互の信頼関係がより深まっている。この信頼は、図書館の更なる改善に取り組んでいくうえで大きな支えとなるだろう。例えば、LiSA の受入人数を増加したり、提示する業務の幅を広げられたのは、協働を通じて本学の学生に対する信頼が深まったからである。また LiSA 以外の面でも、書庫に入れる学年を学部 4 年生以上から 1 年生に引き下げたり、キャリアカフェの本を手続き

なしで「一夜貸し」しているのも、LiSA プログラムを通して本学の学生に対する信頼と安心感を深められたからである。そして学生も私たちの信頼に応えてくれるという好循環が生まれている。

本学のような小規模な図書館で、ラーニング・コモンズや学生協働をどのように充実させてきたかという事例を報告させていただいた。いずれもまだまだ成長の余地があるため、これまでの実績とそれによって培われた自信やパートナーへの信頼を糧に、図書館が主体となって学習・教育支援を充実させていきたい。そのためにも、大学の動き、特に教育改革の取り組みにフットワーク軽く連動できるよう、とにかくできることから着手して動くことで問題点を明確にし、ステップアップを重ねることが大切だと考えている。

参考文献・参考サイト

- 1) 中央審議会. 学士過程教育の構築に向けて (答申). 文部科学省. 2008-12-24.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm [accessed 2011-08-10].

- 2) 井上真琴. 大学図書館の学習支援 (平成 22 年度大学図書館職員長期研修配布資料). 2010, p.182-187.
- 3) 茂出木理子. ラーニングコモンズの可能性: 魅力ある学習空間へのお茶の水女子大学のチャレンジ. 情報の科学と技術. 2008, vol.58, no.7, p.341-346.
- 4) 餌取直子, 茂出木理子. お茶の水女子大学附属図書館における学習・教育支援サービスのチャレンジ: 図書館の学習・教育支援サービスに限界はない. 大学図書館研究. 2008, no.83, p.11-18.
- 5) 岸野幸子. お茶の水女子大学の取り組み『出る杭』を育てる: 企業で女性が輝くための学生支援. 家庭科. 2011, vol.60, no.620, p.1-4.
- 6) 廣田未来, 茂出木理子. 学生と図書館の協働の可能性: お茶の水女子大学 LiSA プログラムについて. 大学図書館研究. 2009, no.87, p.1-8.
- 7) 名古屋大学高等教育研究センター. ティップス先生からの 7 つの提案: 教務学生担当職員編
<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/seven/studentaffairs/index.html> [accessed 2011-08-17].
- 8) お茶の水女子大学. 平成 22 年度お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査. 2011, p.21.
- 9) 山内祐平編. 学びの空間が大学を変える: ラーニングスタジオ/ラーニングコモンズ/コミュニケーションスペースの展開. ボイックス (株). 2010, p.186.

Special feature: Learning commons and user support. Student support at Ochanomizu University Library: Learning Commons and LiSA Program. Miki HIROTA (Ochanomizu University Library and Information Team, 2-1-1 Otsuka, Bunkyo-ku, Tokyo 112-8610 JAPAN)

Abstract: Ochanomizu University Learning Commons and cafe space were set up in April, 2007 to provide an interactive study space for students. It symbolizes one of the University's recent educational reform plans and serves as a collaboration base for the library and other student-affairs offices. And moreover, Ochanomizu University Library began a program called "LiSA: Library Student Assistant Program". "The LiSA program" was established to provide learning and teaching support services to students: it provides learning support by introducing students to a wide range of materials. This paper reports on how a small scale library was able to provide interactive study space to students and learning support services.

Keywords: Learning Commons / career education / learning and teaching support services / student services / study space / educational reform / collaboration / Library Student Assistant(LiSA) / Ochanomizu University Library